

令和3年度（第65回）

岩手県教育研究発表会発表資料

道徳教育分科会

生き抜く力をはぐくむ道徳教育
～人の思いがわかり、自分で考え、判断し、
よりよい行動ができる生徒の育成をめざして～

令和4年2月14日

山田町教育委員会

山田町立山田中学校

小 原 道 宏

令和3年度(第 65 回)
岩手県教育研究発表会
道徳教育分科会

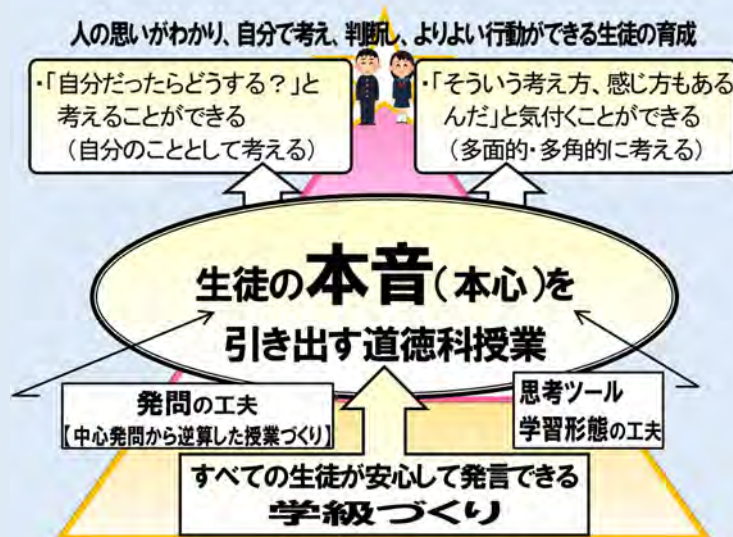
生き抜く力をはぐくむ道徳教育

～人の思いがわかり、自分で考え、判断し、
よりよい行動ができる生徒の育成をめざして～



研究構想

東日本大震災から 10 年が経過し、新校舎の完成や校庭の仮設住宅の撤去など復興が進む一方、震災の経験や記憶のない生徒が増えている。だからこそ、当時の状況や復興に立ち向かってきたこれまでの歩みを踏まえ、今を生きている生徒が、故郷である山田町を見つめ、希望をもって未来を切り拓いていくことができるように、命を大切にし、故郷を愛し、自己を見つめてよりよい生き方を求める道徳性を養うことが、これまで以上に求められている。以上の理由により、今後、岩手の道徳教育をより充実・改善させていくために、本研究主題を設定した。



山田町立山田中学校

人の思いがわかり、自分で考え、判断し、よりよい行動ができる生徒の育成
～互いを尊重し、認め合い、共に成長しながら自己表現ができる生徒の育成をめざして～

成果

提案

研究の手立て① 生徒が本音を表現するための発問、ツール、学習形態の工夫

【発問】

- ・物語と同じ状況下の自分の判断を問う
- ・発問に対する生徒の発言に、問い返して考えを深める

【ツール】

- ・「心情円」で主人公の気持ちを理由もふまえて考え、表現する
- ・「ネームカード」を数直線(スケール)上の自分の考えに近いところに貼り、理由を表現する

【学習形態】

- ・「ロールプレイ」では相手にかかる言葉を主体的に考え、実演し、その様子を見聞きし、振り返りに反映する

【発問の活用例】

- ・自分のこととして考える発問
 (「自分が〇〇(主人公)だったら…?」「自分の考えは、どの登場人物に似ている?」等)
- ・問い返し(「どうしてそう思う?」等)

【ツールの活用例】

- ・「心情円」は二者択一ではない微妙な感情表現で活用
- ・「ネームカード」は全員の考えの可視化、他者との比較、自分の考えの明確化で活用

【学習形態の活用例】

- ・「ロールプレイ」は相手の感情や思考の実感、理解で活用



研究の手立て② 中心発問から逆算した授業づくり

- ・中心発問につながる物語の背景知識を導入で説明する
- ・振り返り文から逆算して中心発問の内容を検討する

- ・中心発問を活かす導入、展開、他の発問を工夫
- ・「想定した振り返り文」⇒「中心発問」⇒「導入、展開」の順に授業構想

研究の手立て③ 授業実践の振り返り「一言感想」の集積と活用

「道徳科 授業実践ガイドブック」の提案

〈以下の場面でぜひご活用ください!〉

- 授業づくりのポイント・注意点の確認
- 中心発問の吟味・選択
- 生徒の本音(思い・考え)の引き出しやすさ・難しさの目安
- 教材文のあらすじ・ねらいの確認
- 授業実践後の振り返り



道徳科の授業に対する意識の変容

「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合(%)
(山田中:全校生徒 316名)

(上段:調査項目) (下段:分析・考察)		山田中	
		4月	9月
1.	道徳の授業が好き	69.6	72.6
研究に基づく道徳科の授業実践を、生徒は概ね肯定的に捉えている。			
2.	道徳の授業を通して、 自分のこと(生き方)を見つめたり、 考えたりすることができた	80.3	80.1
80%以上の生徒が肯定的な回答をしている。このことから、「自分で考える」という研究主題を概ね具現化することができた。			
3.	人の思いや気持ちが分かる人間に なりたと思った	86.8	85.0
4.	道徳の授業を通して、 人が困っているときには、 進んで助けようと思った	85.4	86.7
5.	いじめは、どんな理由があっても 許されないことだと思った	91.9	91.6
85%以上の生徒が肯定的な回答をしている。このことから、「自分で判断し、よりよい行動ができる」という研究主題を概ね具現化することができた。 また、90%以上の生徒が、いじめは「どんな理由があっても許されない」ことだと思うと回答した。これは、昨年度からの道徳科の授業実践において本格的な研究を始めたことと並行して、研究主題を意識して進めた学校教育活動の成果であると考えられる。			
6.	自分が感じたり思ったりしたこと(本音)を 表現(話す、書く、伝える等)できた	67.7	76.8
7.	道徳の授業の中で、 仲間(級友)の気持ちや考え(本音)を 聞いたり知ったりすることができた	81.7	88.4
(* $p < 0.05$ McNemar 検定による)			
9月には4月の調査に比べ、肯定的な回答をした生徒が増加している。これは、道徳科の授業を通して、自分の本音を話す、仲間の本音を聞く、認めること等ができたことにより、「互いを尊重し、認め合い、共に成長しながら自己表現ができる」という研究副題を具現化するために効果的であったことを示していると考えられる。以上により、日常の道徳科の授業実践及び授業力の向上が生徒の良好な人間関係づくりに、より大きな効果をもたらすことを証明することができたと考えられる。			

本研究により、各々の意識に変容が見られたことは大きな成果である。結論として、やはり教師が授業づくりの基本に立ち返ることが、生徒に「よい授業」を提供できることを再認識することができた。道徳科の授業が好きになった子どもたちに向けて、我々が次にめざすところは、本研究で得た授業づくりを基礎として、より分かりやすく道徳的な価値に迫り、本音で語り合う道徳科の授業実践に向けて深化を続けることである。それがやがて、子どもたちの生き抜く力をはぐくむことになると確信することができた。

生き抜く力をはぐくむ道德教育

～人の思いがわかり、自分で考え、判断し、よりよい行動ができる生徒の育成をめざして～

1 校内研究において「特別の教科 道德」の授業の充実を図る背景

本校の教育目標および「特別の教科 道德」（以下、「道德科」と表記）研究主題は右の通りである。このうち、「**人の思いがわかる生徒**」とは、「人の思いがわかり、自分で考え、判断し、よりよい行動ができる生徒」と軌を一にするものであり、本校教育目標の具現化のためにも、本研究

【学校教育目標】

- 人の思いがわかる生徒（豊かな心）
- すすんで学ぶ生徒（確かな学力）
- 健康でたくましい生徒（健やかなからだ）
- 郷土の復興に協力する生徒（復興教育）

主題の追求が求められる。

また、道德科の授業を充実させ、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の人間

【道德科研究主題】

人の思いがわかり、自分で考え、判断し、よりよい行動ができる生徒の育成
～互いを尊重し、認め合い、共に成長しながら
自己表現ができる生徒の育成をめざして～

としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができるとともに、生徒の自己肯定感や自己有用感の醸成、さらに、人の思いがわかり、自分で考え、判断し、よりよい行動ができる「人間性等」の涵養につながると考えられる。

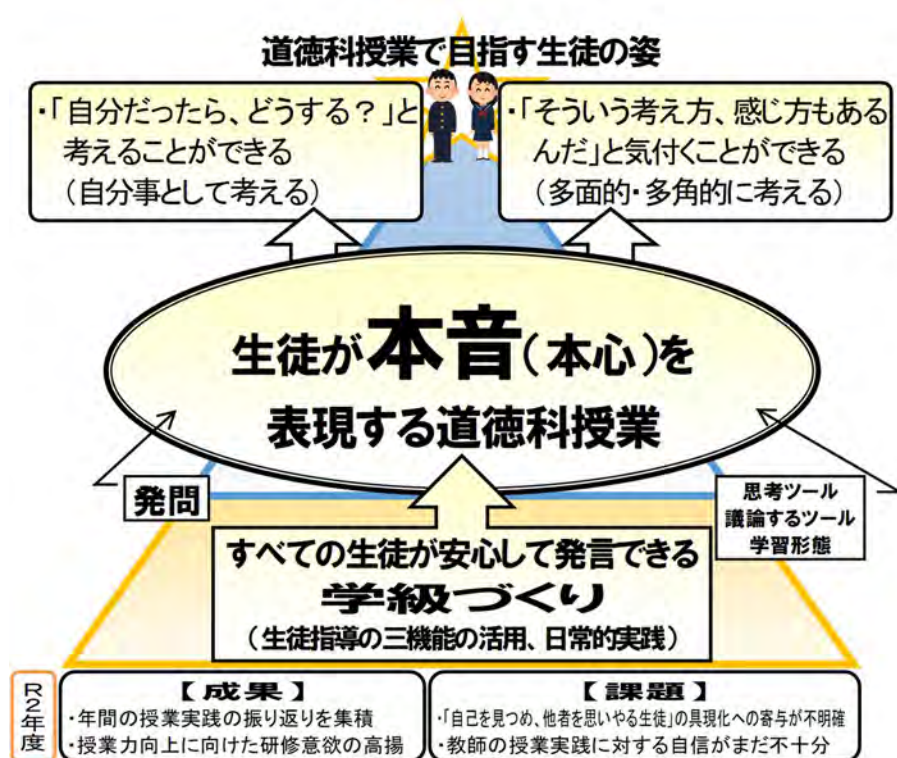
以上から、学校教育目標および道德科研究主題において育成を目指す生徒像に迫るために、校内研究において道德科の授業の充実を図ることとした。

2 道德科の授業の充実を図るための校内研究の方向性

(1) 生徒が本音を表現する道德科授業の実践に向けて【図1】

ア 発問の工夫

道德科授業の目的について、千葉（2020）は「学校生活の中の問題や、これから人生で出会う問題に立ち向かえるようにすること。」としている。一方で、教師に問われることには正解があって、それを答えればよいというスタイルの授業によって、生徒の道德授業のイメージは、無意識のうちに教師の求める正解を付度し、発表するものとなっている点を指摘し、「これまでの道德授業は、授業中には良いことを言っていたのに終わると消えてしまう線香花火のようなものだったのではないのでしょうか。」（千葉 2020）とも述べている。そして、この課題を改善するための方法として、



【図1】 生徒が本音を表現する道德科授業の実践をとおした目指す生徒像の育成のイメージ

次の3点を紹介している。

- (ア) 生徒のWANTから出発する
- (イ) 理解ではなく納得させる
- (ウ) 違う視点から考えさせる

(ア)については、例えば、教師は生徒に誰とでも仲良く過ごしてほしいと思っている一方で、生徒は気の合う仲間と楽しくやればそれでいいと考えており、その違いを残したまま授業に臨んでも、違和感の多い不完全燃焼なものになってしまうと指摘している。そして、その発問で求めたい変化は、誰が望んでいるものなのか（教師の一方的な願いになってはいないか）を謙虚に振り返り、**どうしたら生徒自身がそれを望むようになるか**を考える必要があると主張している。

(イ)については、教材「大きな絵はがき」（転校した友人から郵便料金不足の絵はがきを受けとった主人公が、友人に伝えるべきか悩むという物語）という、一見、本当の友達なら、間違っていれば教えてあげるべきだという大人の思惑が感じられる教材を例に、正論であることが分かっても、行動に移せないという授業では、理解はしても納得できていないことであり、これでは心に響くことは難しいと述べている。道徳科授業では理解を超えて納得のレベルを目指さなくてはならないとし、授業改善に向けた発問の一例として、「あなたが、この絵はがきをもらったときに一番伝えたいことは何ですか。」を提案している。

(ウ)については、同教材において、主人公だけでなく、絵はがきを送った転校した友人の状況も想像できるよう、ペアでの役割演技を行うことを提案している。

以上のように、教師が生徒に考えさせたいことという発想で発問を考えると、価値に追い込もうとする授業に陥ってしまう。一方で、**生徒が「どうなんだろう」、「他の人はどう考えるんだろう」と思える発問**を工夫することで、**生徒が本音を表現する中で、主体的に価値に迫ろうとする授業**になると考えられる（千葉 2020）。

イ 思考ツール、議論するツール及び学習形態の工夫

道徳科の授業において生徒が本音を表現する工夫として、発問の他に、思考ツールや議論するツール、学習形態の工夫が考えられる。また、道徳科の評価の視点の一つである「多面的・多角的な見方へと発展する」という点においても、それらの工夫は効果的であると考えられる（諸富ら 2020）。

- (ア) 思考（考える）ツール

心情円、スケーリング、マトリクス、ランキング、マッピング（ウェビング、コンセプトマップ等）、チャート（Xチャート、Yチャート、熊手チャート、データチャート、クラゲチャート、ピラミッドチャート、バタフライチャート、キャンディチャート、円チャート、同心円チャート等）及びフィッシュボーン等。

- (イ) 議論する（話し合いの）ツール

（付箋による）KJ法、コミュニケーションボード（ホワイトボード等）及びディベート等。

- (ウ) 学習形態（(ア)及び(イ)と重複する場合もある）

ペア、グループ、班、役割演技（ロールプレイ）及びトーキングサークル等。また、生徒が互いの表情を見合いながら安心して発言できる雰囲気醸成できる点や、教師の机間指導及び支援がしやすくなるという点から、全学級でコの字型の座席配置で道徳科授業を実践している学校もある（大船渡市立大船渡中学校 2017, 2021）。

ただし、思考ツールや議論するツール、学習形態の工夫は、あくまでも授業をとおしてねらいに沿った道徳的価値について生徒に考えさせ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるための手段、方法であるため、その活用については各授業者が本時の授業のねらいを達成するための必要性を考え、

実践していくことが基本となると考える。また、生徒の考えを深めるためにそれらをどのように授業の中で工夫、活用するのかということを考えることで、さらに、上記アの発問の工夫や、授業者からの問い返しの工夫につながることを期待される。

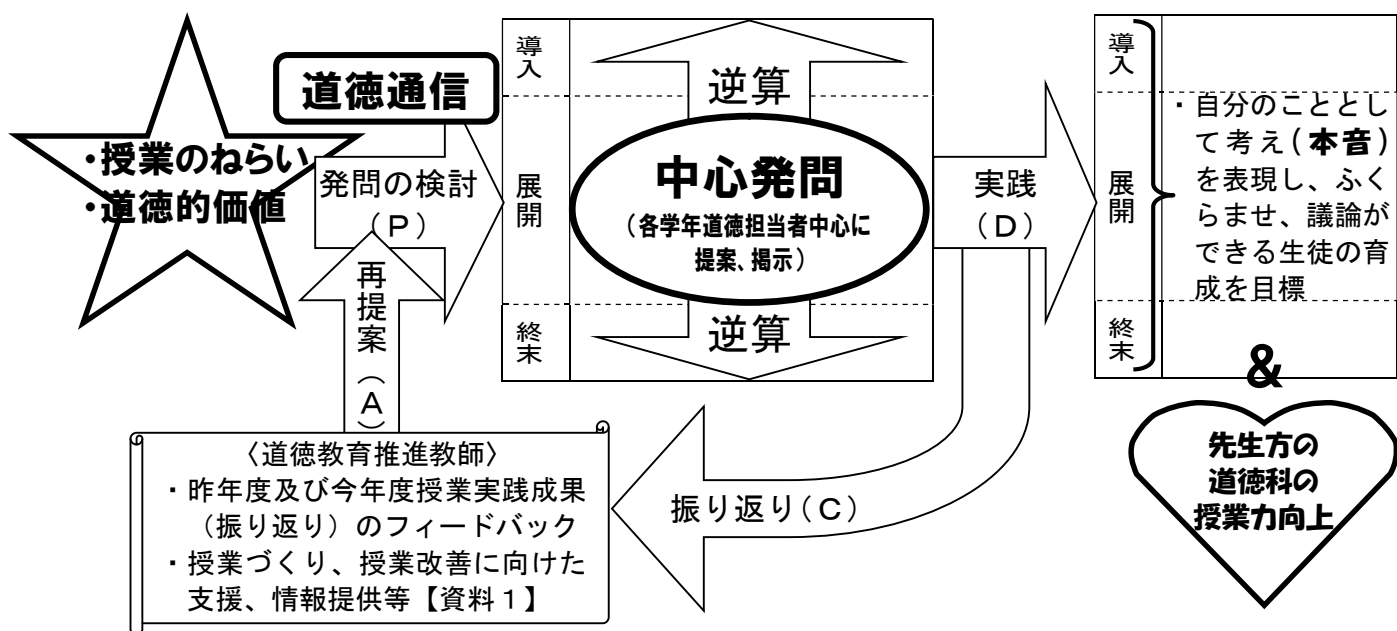
ウ 生徒が本音を表現する道徳科授業の実践に向けた共通実践

- ① 生徒が本音で答えたいくなる、本音を表現できる（中心）発問を工夫し、道徳科授業を実践した。
- ② 各種ツールや学習形態は本時の道徳科授業のねらいに沿って、適宜工夫、活用した。
- ※ 全学級で活用できるよう、心情円は教科書に挟んで保管、スケーリング（マトリクス）に活用できるよう、生徒氏名のマグネットプレートを学級配布し、適宜活用した。

(2) 中心発問から逆算した道徳科の授業づくり、授業実践【図2】

ア 中心発問の重要性及び分類

上記(1)において、道徳科授業で生徒が本音を表現するための発問の重要性について言及したが、道徳科の授業をとおして生徒に考えさせ、さらに、議論させたい道徳的価値に迫るために最も重要である発問が中心発問（主発問）である。その中心発問を道徳科授業の中心に据え、生徒が考え（**本音**）を表現し、ふくらませ、議論をできるようにするために、そこから逆算して道徳的価値に迫る中心発問を活かす学習指導過程、他の発問（基礎発問、補助発問）、指導法（各種ツール等）を工夫した授業を構想、実践した（「**中心発問から逆算した道徳科の授業づくり、授業実践**」）。その際、発問に対して、決められた答えを教材中から探すのではなく、ねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えたり、自分との関わりの中で深めることができるよう、中心発問をより簡潔な表現、文言にする実践例（大船渡市立大船渡中学校 2021）や、「教材の話の流れに沿って話し合う」という従来型の授業展開を変更し、「教材の特定場面に焦点を当て、考え、議論し、そこで出た考えをもとに、ねらいとする道徳的価値の大切さについて考え、自己を見つめる」という学習指導過程による道徳科授業の実践例（雫石町立御明神小学校 2021）、授業の導入から中心発問に至るまでの基本発問を全て教材範読後の感想交流とすることで、中心発問に至るまでの教材における心情理解や状況の把握を短時間で行う実践例（『道徳教育』編集部 2019）もある。また、中心発問については、場面発問とテーマ発問の大きく2種類に分類することができ（大船渡市立大船渡中学校 2017）【表1】、教師はその違いを理解した上で、教材をとおしてねらいとする道徳的価値に迫るためにより効果的な発問となるよう、意識して使い分けることが大切である。



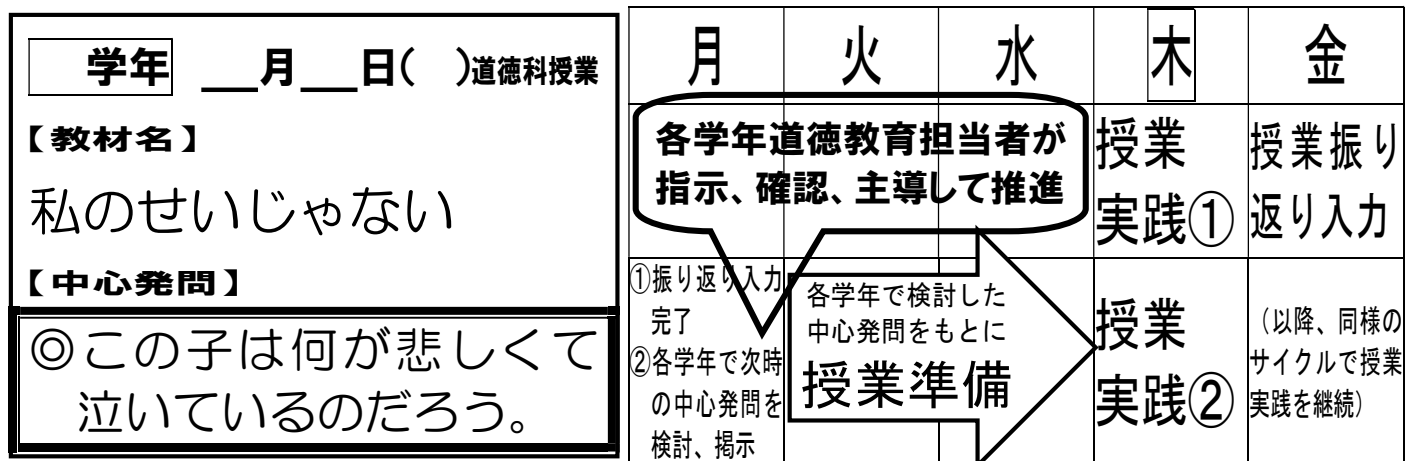
【図2】 「中心発問から逆算した道徳科の授業づくり、授業実践」の流れ

【表 1】 道徳科授業における中心発問の分類

	場面発問	テーマ発問
意図	教材中にある場面に即して、登場人物の心情や判断、行為の理由などを問い、気づきを明らかにする発問	教材のもつ主題やテーマそのものに関わって、それを掘り下げたり、追求したりする発問
例	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇（登場人物）はどんな気持ちだったか。 ・そのとき、〇〇はどんなことを考えていたか。 ・〇〇が△△したのはなぜだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇の生き方をどう思うか。 ・この話は、どんなことが問題なのか。 ・本当の□□（道徳的価値）とは何だろう。 ・なぜ、きまりを守らなければならないのだろう。

イ 中心発問から逆算した道徳科の授業づくり、授業実践に向けた共通実践

- ① 各教材で昨年度実践した中心発問等を参考に、各学年道徳担当者が中心となり、各学年で今年度の授業で実践する中心発問（より簡潔な表現、文言で）を検討した。
- ② 各学年道徳担当者は決定した中心発問（案）を掲示し【図表 1】、各授業者は逆算して1単位時間の道徳科授業を構想し、実践した。



【図表 1】 「中心発問から逆算した道徳科の授業づくり、授業実践」の手順と中心発問（案）の掲示物

(3) 道徳科授業の実践振り返り「一言感想」の集積及び道徳科授業実践ガイドブックの提案、提供

ア 道徳科授業の実践振り返り「一言感想」を活用した授業構想、授業実践

上記(2)における中心発問から逆算した道徳科の授業づくり、授業実践について、昨年度より各授業者が振り返り、その成果と課題について記録を集積してきた。今年度はさらに、昨年度の各授業者の道徳科の授業実践に基づく振り返りをもとに、一層の授業改善を図った。以上の本校生徒を対象とした、本校教職員の実践に基づく道徳科の授業づくり及び授業実践のヒントや手立てを集約し、**市販の指導書にはない道徳科の授業実践ガイドブック**として、本発表会をとおして県内の諸先生方に提案、提供したい【参考資料】。さらにこれを「山田中 道徳スタンダード」として、**道徳科の授業づくり及び授業実践の拠りどころとして活用**し、一層の授業実践を積み重ねることで、全教職員の道徳科の授業力向上に資するとともに、道徳科の授業実践をとおして育成を目指す生徒像の具現化を図りたい。

【引用文献】

『道徳教育』編集部（2019）考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集、明治図書出版

- 諸富祥彦・土田雄一・松田憲子（2020）考えるツール&議論するツールでつくる 中学校道徳の新授業プラン.
明治図書出版
- 大船渡市立大船渡中学校（2017）平成 29 年度 第 42 回岩手県道徳教育研究大会気仙大会 研究紀要.
- 大船渡市立大船渡中学校（2021）令和 2 年度（第 64 回） 岩手県教育研究発表会発表資料 特別の教科 道徳
分科会 人間としての生き方を思い描き、主体的に判断し生きようとする生徒の育成 ～道徳科における「考
え、議論する」授業づくりと評価の在り方～.
- 雫石町立御明神小学校（2021）令和 2 年度（第 64 回） 岩手県教育研究発表会発表資料 特別の教科 道徳分
科会 自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成 ～思いを伝え合い、考えを深める道徳の授業づく
りをおして～.
- 千葉孝司（2020）千葉孝司の道徳授業づくり 発問を変える！価値に迫る道徳授業. 明治図書出版

【資料1】

人の思いがわかり、自分で考え、判断し、よりよい行動ができる生徒の育成

道徳通信

～互いを尊重し、認め合い、共に成長しながら自己表現ができる生徒の育成をめざして～



山田町立山田中学校 道徳教育担当
文責:小原 道宏 2021年5月20日(木)

体育祭直前も道徳の授業実践、ありがとうございます！

いよいよ明日、体育祭本番というところでの道徳の授業実践、そして、お忙しい中、教材(資料)研究、授業準備にご尽力いただき、本当にありがとうございます！道徳科の授業をはじめ、体育祭などの学校行事も含めた学校の教育活動全体をとあして、子どもたちの感性や情操、道徳的实践力(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)を育てていただければ幸いです。

教材名：**風を感じて一村上清加のチャレンジ**(5月13日) **1学年**

内容項目：A(4)希望と勇氣、克己と強い意志

【授業の振り返り(授業者の感想)】

【○成果等】

- ・前回より生徒が主人公に感情移入しているように見受けられた。「村上さんの生き方からどんなことを学んだか」という発問に対しては、「諦めないこと」や「挑戦することの大切さ」という記述が多数あり、概ねねらいとする価値には近づけたかなと思う。
- ・中心発問に対し「きっかけを作りたいから」と教科書を抜き出す生徒が多かったが、「村上さんはなぜそこまでするのだろうか?」と追加発問をして深めることを目指した。

教材名：**みんなでとんだ!**(5月13日)

2学年

内容項目：B(8)友情、信頼

【授業の振り返り(授業者の感想)】

【○成果等】

- ・はじめはきれいごとでみんなで跳ぶと話していた生徒も「矢部ちゃんが嫌でもみんなで跳ばせるの?結果的に跳べたらいいけど、跳べなかったら一生嫌な思いとして残らないか?」という言葉かけたことで生徒が持っている本音を引き出せたように感じた。最後にもし、本番に跳べていなかったら2年1組にとってどんな運動会になっていたか考えさせたかった。
- ・映像資料とオリンピック直前ということ、協力学級で似たような部分もあることで、資料の話と自分たちとを重ねて考えることができた。
- ・映像資料を見せた。ストーリーの中に入って行って、一言の問いかけで一生懸命書くことができた。

【△課題等】

- ・出てきた答えは一緒に跳びたいがほとんどだったが、本音が出たかという微妙なもので、もっと突っ込んでよかったかと思った。

教材名：**高く遠い夢**(5月13日)

3学年

内容項目：A(4)希望と勇氣、克己と強い意志

【授業の振り返り(授業者の感想)】

【○成果等】

- ・高い目標を達成するために、努力をし続けることの大切さに気付かせることができた。
- ・中総体と関連付けて、目標を追い続けるために必要なことを発言することができた。

【△課題等】

- ・もうちょっと文章中から思いを考えさせられればよかった。